

青果物のための緩衝包装设计 — 繰り返し衝撃対策の新展開 —

技術の特徴

- ・青果物の繰り返し衝撃による損傷発生において、衝撃1回あたりの損傷度をピーク加速度および速度変化の2要因から定義。
- ・包装容器の違いや緩衝材の違い、あるいは包装容器内における部位の違いに確実に対応する高精度な緩衝包装设计が可能となる。

実輸送における包装条件は様々。損傷評価および予測はそれら全てに対応しなければならない。



包装容器が違う



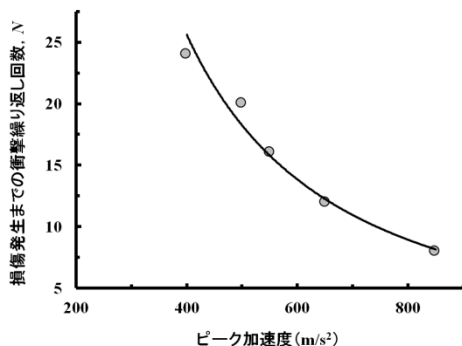
緩衝材が違う



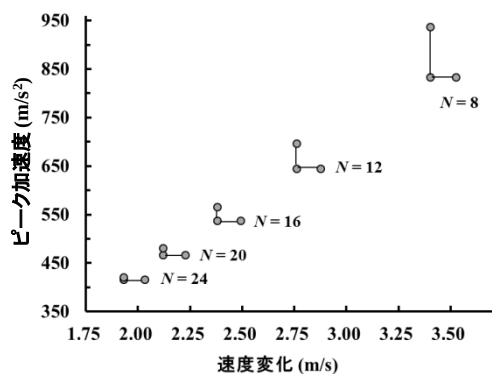
部位が違う



研究の内容



従来の繰り返し衝撃による青果物損傷の評価
(速度変化の影響を考慮できていない)



速度変化の影響を考慮した繰り返し
衝撃による損傷の評価

今後の展開

- ・繰り返し衝撃により損傷する青果物や物品のための高精度な緩衝包装设计
- ・輸送経路や手段(トラック、鉄道、船舶、飛行機)に対応した緩衝包装设计

参 考

- ・北澤裕明・斎藤勝彦: 日本包装学会誌 **23**(4): 277–285 (2014).
- ・Kitazawa, H. et al.: *Packaging Technology and Science* **27**(3): 221–230 (2014).
- ・北澤裕明ら.: 日本包装学会誌 **21**(2): 125–132 (2012).